

キンメダイ 天皇海山海域

Splendid alfonso Beryx splendens



管理・関係機関

北太平洋漁業委員会 (NPFC)

生物学的特性

- 最大体長・体重：尾叉長 53 cm・体重 2 kg
- 寿命：20 歳以上
- 性成熟年齢：4~5 歳（日本沿岸における繁殖開始年齢）
- 産卵期・産卵場：夏、産卵場は不明
- 索餌期・索餌場：着底後は日周鉛直連移動を行い、主に夜間に索餌
- 食性：浮遊期は不明。着底後は魚類、エビ類等
- 捕食者：不明

利用・用途

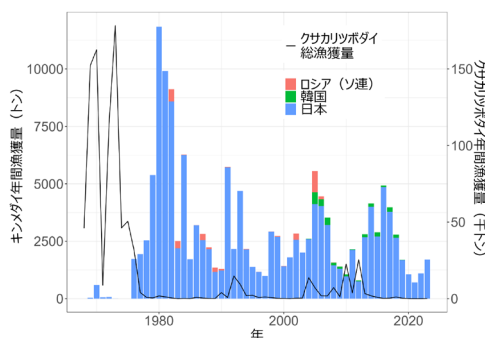
冷凍ラウンドで水揚げされ、鮮魚、干物、煮付け等として販売。

漁業の特徴

本資源は、天皇海山海域において操業を行っている我が国の底びき網・底刺網漁業の対象魚種である。最も重要な漁獲対象種はクサカリツボダイであるが、卓越加入の有無により漁獲量の年変動が極端に大きいため、不漁時には本資源が主な代替資源として漁獲されている。底びき網漁船は、頂上が平坦な海山の頂上部（水深 300~500 m）で、底刺網漁船は海山斜面域や水深が大きい海山で操業を行っている。同海域では、1967 年に日ソ連が漁場開発し、我が国の漁船は 1969 年から操業を開始した。我が国の漁船数は 2013 年には底びき網船 6 隻、底刺網船 1 隻であったが、2020 年以降は底びき網船 1 隻、底刺網船 1 隻に減少している。ロシア漁船は 1982~2009 年の間、底びき網及び底はえ縄によって本資源を漁獲していたが、近年の漁獲は報告されていない。2004 年以降は韓国の底びき網漁船が参入したが、近年の漁獲量は 200 トンに満たず、2020 年以降は操業していない。

漁獲の動向

本資源の漁獲は天皇海山漁場の開発から 10 年を経てクサカリツボダイの漁獲量が激減した 1970 年代後半から始まり、1980~1982 年には年間 1 万トン前後に達した。一方、1985 年以降の我が国の漁獲量は、1991 年を除けば年間 5 千トンを下回っている。最近ではクサカリツボダイの卓越加入年であった 2010 年、2012 年の漁獲量が 1 千トン以下と少なかったのに対し、クサカリツボダイ加入量が極めて少なく漁獲量が低迷している 2013 年以降は年間漁獲量が増加し、2016 年には約 4,851 トンに達した。しかし、それ以降は減少傾向にある。天皇海山海域の底びき網漁業の漁獲開始年齢は 1 歳未満（尾叉長 10 cm 前後）、体長の最頻値は概ね 1~2 歳（尾叉長 18~24 cm）に相当し、着底直後の未成魚から漁獲している。また、ここ数年で尾叉長 30 cm 以上の成魚の割合が経年的に減少しており、漁獲物がさらに小型魚に偏る傾向にある。一方、底刺網の漁獲開始年齢は 1~2 歳（尾叉長 20 cm 前後）、最頻値は概ね 4~7 歳（尾叉長 28~31 cm）である。

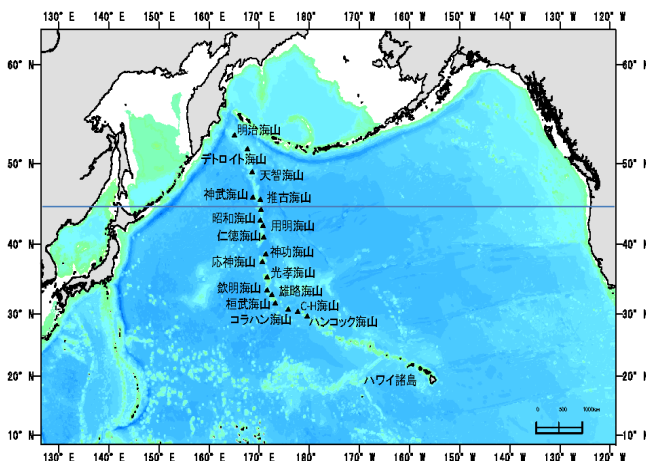


天皇海山海域におけるキンメダイの国別漁獲量及びクサカリツボダイの総漁獲量の推移 (1969~2023 年)

資源状態
2024年にはNPFC科学委員会においてYPR及びSPR解析が実施され、成長乱獲が生じている可能性が高いこと、未成魚の漁獲により産卵ポテンシャルが損なわれている可能性があること、ただし底びき網の選択率に関する仮定により悲観的な方向へのバイアスがあり得ることが合意された。

管理方策
2016年にNPFCの保存管理措置として、漁船数の凍結と一部海域の禁漁等が採択された。これは2009年からの暫定措置を引き継いだものである。また2019年より順応的管理措置の一部としてキンメダイまたはクサカリツボダイを対象とする操業を行う場合に、底びき網のコッドエンド目合い13cm以上とする網目規制が導入された他、2016年以降、11～12月とされていた禁漁期間が、2025年以降、新たに1月を禁漁期間に加えることが、2024年4月の第8回委員会会合で決定した。これに加えて、我が国では、底刺網は網目の結節から結節までの長さは12cm以上（許可の条件）等の措置が講じられている。また我が国の漁業者は底びき網の総曳網時間を5,600時間以内に制限している。 NPFCでは本種をクサカリツボダイと並ぶ底魚資源評価の優先対象種に掲げており、現状の管理措置の有効性評価が求められている。我が国では、底刺網は網目の結節から結節までの長さは12cm以上（許可の条件）等の措置が講じられている。

キンメダイ（天皇海山海域）の資源の現況（要約表）	
世界の漁獲量 （最近5年間）	713～1,701トン 最近（2023）年：1,701トン 平均：1,255トン（2019～2023年）
我が国の漁獲量 （最近5年間）	713～1,701トン 最近（2023）年：1,701トン 平均：1,252トン（2019～2023年）
資源評価の方法	加入量あたり漁獲量 加入量あたり産卵資源量
資源の状態 （資源評価結果）	トロール漁業については成長乱獲が強く示唆。小型魚の漁獲により産卵ポテンシャルが損なわれている可能性がある。ただし計算の仮定に由来する悲観的な方向へのバイアスがあり得る。
管理目標	検討中
管理措置	○NPFC保存管理措置： ・操業許可漁船数の増加禁止（我が国＝底びき網：7隻以内、底刺網：1隻以内） ・北緯45度以北における操業禁止 ・水深1,500m以深での操業禁止 ・C-H海山及び光孝海山南東部の閉鎖 ・底刺網を海底から70cm以上離して敷設する ・底びき網のコッドエンド目合い13cm以上（5kgの張力をかけて計測） ・11～1月（クサカリツボダイ産卵期）の禁漁 ・漁業者から独立した科学オブザーバーの100%乗船 ○我が国自主措置： ・刺網の網目の結節から結節までの長さ12cm以上（許可の条件） ・漁獲努力量上限の設定（底びき網年間総曳網時間5,600時間以内）
管理機関・関係機関	NPFC
最新の資源評価年	2024年
次回の資源評価年	未定



天皇海山列の地図
 コラハン海山から推古海山南バンクまでが底魚漁場として利用されているが、キンメダイが漁獲されるのは仁徳海山以南である。